

# ISOなんて止めちまえ！

—ISOコンサルタント10年の振り返り—

(株)環境セキュリティ・システム研究所 代表取締役 米ヶ田 健司

「ISOなど止めたらどうですか？」と言いたくなる会社がたくさんある。

ここでいうISOとは、ISO9001(品質)、ISO14001(環境)、ISO22000(食品安全)、ISO27001(情報セキュリティ)、OHSAS18001(労働安全衛生)、JIS Q15001(個人情報保護)などの経営(マネジメント)システム規格のこと。

ISOコンサルタントの仕事を始めて丸10年が経過。東京から九州に戻って最初の1年は、“ISO”を理解いただける企業も少なく、“ISOとは何か？”をただ(≒無料・即ち、失業状態で)説明して回るだけであった。一方、九州ではまだ私のような存在は極めて珍しく、テレビや新聞、雑誌などで取り上げられた。

1年後、法人化。地場の意欲的な企業や海外取引のある企業や自治体などから、コンサルタントとして、研修・講演の講師として、多くの仕事をいただいた。書店に“ISO”本(ましてや“ISO”コーナー)などほとんど無かったから、客先の責任者・担当者とじっくり協議しその企業に適切な形や内容を工夫しながら創り上げていくものであった。(お蔭様で多くのノウハウを蓄積できた。効率的にはなったが今でも1社1社その企業にあったものを創り上げていく考えに変わりない。)

ところがここ4～5年は。“入札条件だ”、“仕入れの取引条件だ”と騒がれ、ただその為(認証登録証を額にいれて掲示、名刺にマークを入れる)だけの、形だけの、文書(マニュアルや規定、記録)の山だけを作る、役に立たないISOがまかり通っている。こんな企業に出会うと「ISOなど止めたらどうですか？」「残念・・・資源(時間、労力、お金)が勿体ない。・・・真に経営に役立てられるのに！」というしかない。

ここ2～3年は、当社が指導していない取得済みの企業から、「ISOが上手く運用できていない。何とかしたいのだが、指導して欲しい。研修して欲しい。」というご依頼が増加している状況だ。